

経営比較分析表（令和5年度決算）

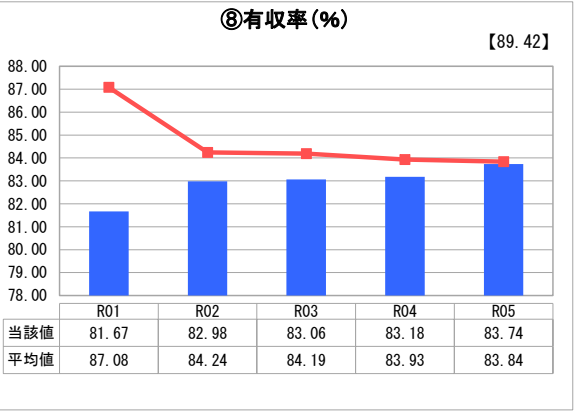
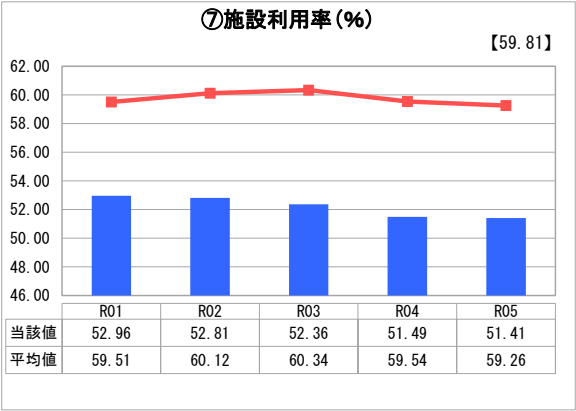
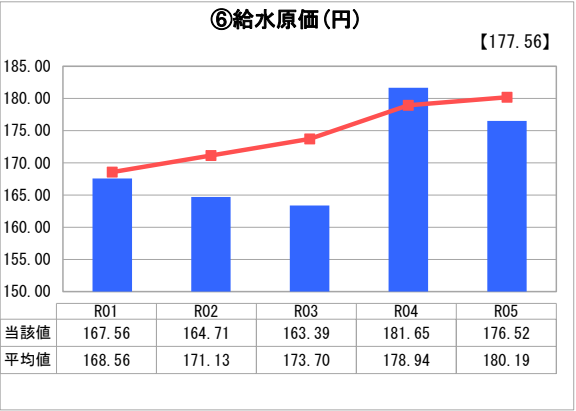
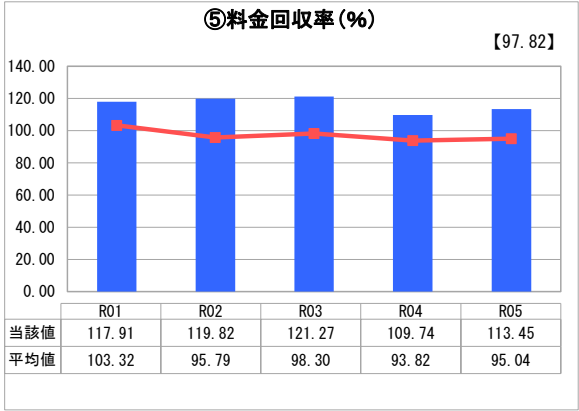
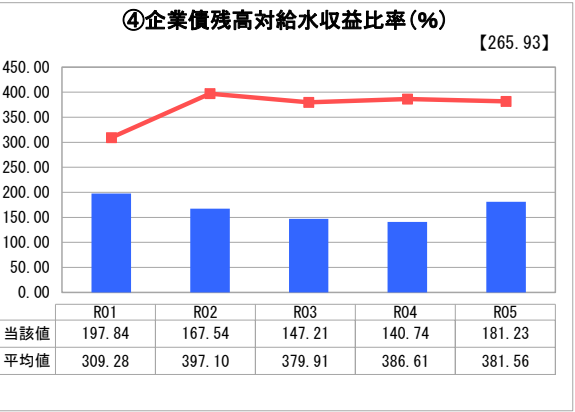
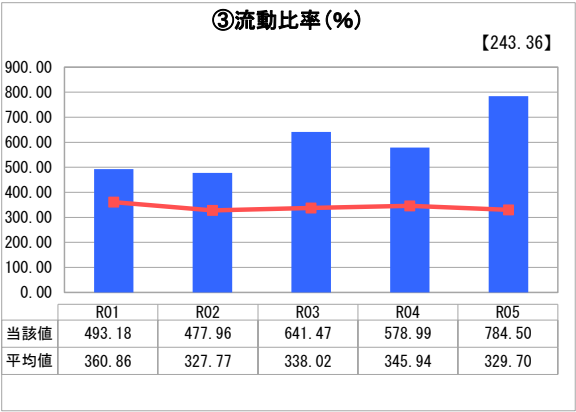
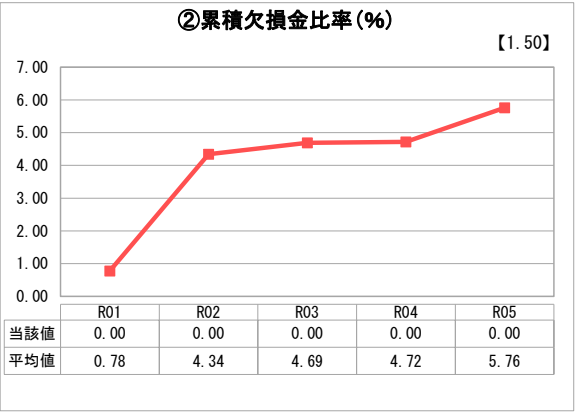
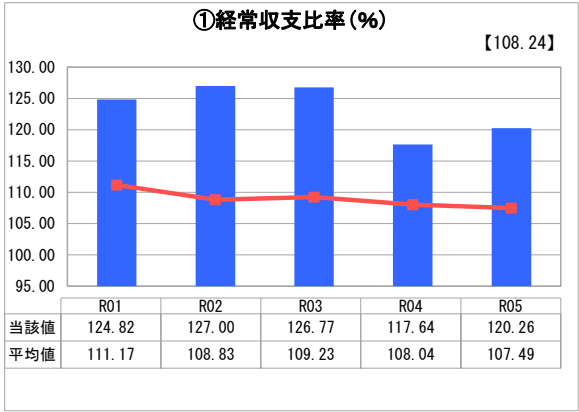
長野県 須坂市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	87.08	99.94	3,300	

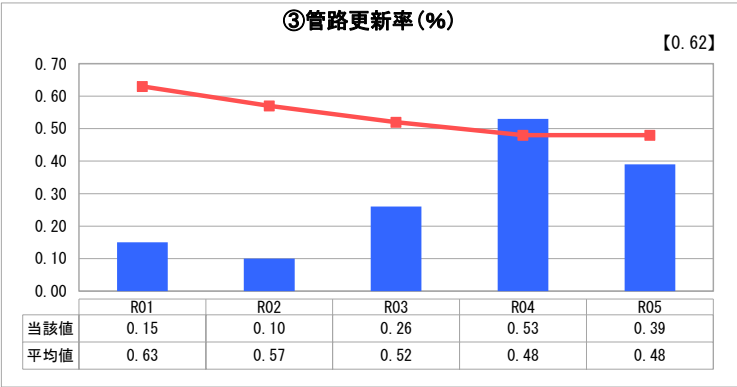
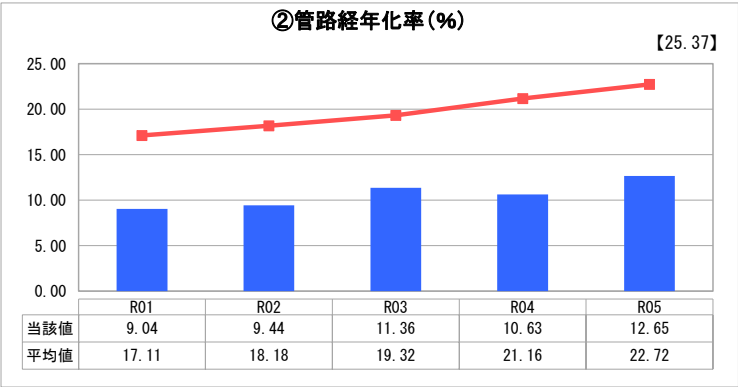
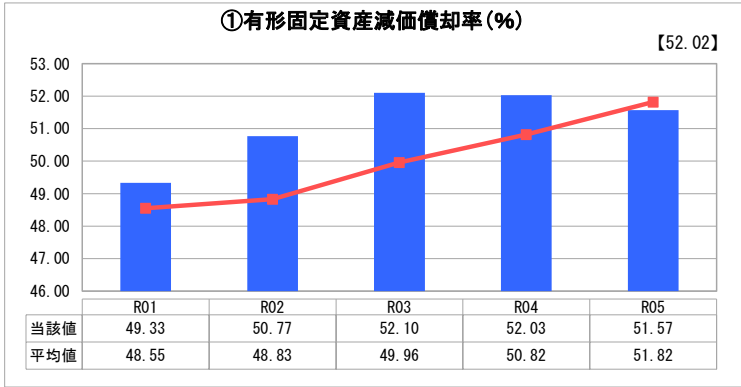
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
49,582	149.67	331.28
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
49,429	52.69	938.11

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっており、「⑤料金回収率」も、給水に係る費用が給水収益で賄えているかを示す100%以上で、今のところ健全財政を維持している。

「②累積欠損金比率」は、経費削減等により健全経営を維持しているため、計上していない。

「③流動比率」は、100%を上回っており、現金預金も収支に見合う額を確保している。

「④企業債残高対給水収益比率」は、企業債残高を縮小させる方針により減少していましたが、今後は、施設の更新費用に充てる企業債を有効活用するので増加する見込みである。

「⑥給水原価」は、人口減少に伴い年間収水量の減少が見込まれる一方で、物価上昇等による費用の増加が見込まれるため、今後も高く推移していく予定。

「⑦施設利用率」は、全国平均や類似団体平均値と比較して大きく下回っている。これは、メインの水源であるダムの水位不足に対応するため、予備能力を確保してきたことによる。

「⑧有収率」は、漏水調査等の企業努力により改善してきている。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は上昇傾向にあるが、浄水場の電気設備等の更新により減価償却累計額が減少したことで、減少した。

「②管路経年化率」は、国平均や類似団体平均値と比較して大きく下回っているが、1980年代後半から下水道の普及と同時に布設替えを行ったことから、今後は法定耐用年数を迎える管路が急激に増えることが想定される。

「③管路更新率」は、②管路経年化率の上昇に伴い管路の更新を進めるため、今後高くなることが想定される。

全体総括

給水人口の減少による給水収益の減少が予測される一方で、老朽化施設の更新需要が増加することから、経営指標は総じて今より悪化することが想定される。

水道ビジョンの見直しにより今後の更新計画等が具体化したことから、経営戦略の見直しを行った。今後の更新費用や、耐震化の需要に対応する費用を確保するため、水道料金等審議会を開催し料金改定に向けた検討を行う。

漏水対策については、衛星画像を使ったAI解析による漏水調査の解析データを活用し、有収率の向上を図る。